



～お葬儀屋さんのひとりごと～

初盆とは？礼儀や作法について！

お盆は、先祖や亡くなった方を供養する期間のことを言います。毎年、8月13日～16日の間に、先祖や亡くなった方が浄土から私達の住む世界へ戻ってくると言われており、その時にお迎えをしておもてなしをするのがお盆となっています。なお、8月13日～16日をお盆とするのは新暦によるもので、一部の地域では今も旧暦のまま7月13日～16日をお盆としている場合もあります。では、初盆にはどのような意味があるのでしょうか。また、初盆は通常のお盆と何か違いがあるのでしょうか。お盆については知っていても、初盆のことはよくわからないという方は多いと思いますが、初盆はとても大切な行事となっています。知らなかったで済まさないように、今から初盆についてしっかりと学んでおく必要があるのではないのでしょうか。

■ 初盆とは？迎え方や時期はいつなの？

お盆は、お盆は、ご先祖やなくなった人たちの霊が一年に一度家に戻ってくるといわれています。正しくは、『盂蘭盆会』（うらぼんえ）といいます。サンスクリット語でウラバンナ（逆さづりにされたような苦しみ）といい、『盂蘭盆会』はその音が転じて、略してお盆というようになったといわれています。この行事は、お釈迦様のお弟子の目蓮尊者が亡くなったお母様が餓鬼の世界で苦しんでいるのを知り、お釈迦様のお導きで多くの衆僧を招いてご供養し苦しみから救うことができた。という古事から、この期間にご先祖の霊を我が家に迎え入れてご供養を捧げ、また、仏様の浄土に送り返す『盂蘭盆会』の行事が行われるようになったといわれています。そして初盆は、四十九日法要が終わった後に迎える最初のお盆のことを指します。場合によっては、四十九日法要後すぐに初盆を迎えることもあります。お盆の時期に四十九日法要が終わっていない時は翌年のお盆に初盆の法要を行います。初盆では盆の入りにお墓の掃除をして、仏壇や仏具をきれいに清めます。お仏壇とは別に、初盆祭壇を設ける場合もあります。お仏壇や初盆祭壇にはお供え物をし、周りには盆提灯を飾ります。玄関には、迎え火の代わりに迎え提灯を点します。法要は僧侶を呼んでお経をあげていただき、そのあとは招いた人たちで食事をするという形が一般的です。

家紋騒動記 [男性 61歳]

しっかり者の妻を失った義父は、久しぶりに集まった息子たちの姿に浮かれ、立ったり座ったり歩き回ったりで、全くの躁状態である。葬儀社の人は驚くほどてきぱきと、通夜葬儀万端の手順を整えていく。その中での流れを停めたのがこの家の宗旨である。

宗派が判ればそれによってお寺さんの手配をしてくれるのだと云う。然し仏壇も無いこの家で、手を合わせる機会も無く育って来た息子たちに、宗派の事など判ろう筈も無く、義父でさえ判然とした答えを出せないでいる。仏頂面の長男が、電話で母の死を伝えながら叔父にたずねる。

次の大きな引っかかりは、会葬御礼の印刷物に入れる家紋である。両親の紋服姿など見た事もない息子たちには、自分の家に紋のある事すら判っていない。再び長男の電話である。言葉で聞いただけの形も判らぬ家紋を、家紋帳をひろげた葬儀社の人が指で示して確認を求める。

「そうだわ、田舎のお祖母さんの肖像画は、たしかにこんな紋付きを着ていたわ。」妻がきっぱりと云うと、かたわらから義父が、「うちにゃあ紋なんかないぞ。」と大声を出す。

兄弟たちの事はともあれ、年老いた両親の交際に関し、ある程度は知ってはいなくてはならないと痛感したのだった。小学生の頃、工作の時間に真鍮板を釘で叩き出し、家紋入りの表札を作ったことがある。我が家の「丸に橘」が難しく、簡単な家紋の友を羨ましく思ったものである。その工作のお陰で、わが家紋は強く脳裏にあるが、私の娘達は我が家の家紋など知らないのではなかろうか。

私は一計を案じた。言葉で教えるよりも形を示し、馴らしてしまうのが何よりと思う。そこで初詣の土産に家紋入りのミニ提灯を買い求め、部屋の隅に掲げておこう。娘たちは、それに拠って我が家の紋を認識する事だろう。彼女たちには嫁に行くまでの、わずかな期間の家紋ではあるが、私たち夫婦には生涯の「丸に橘」であるのだから。

